平成２８年１０月１９日

平成２８年度　前期授業改善の結果及び後期授業改善の取組について

学校名　墨田区立中川小学校
校　長　関本　　淳

１　本校の学力向上に関する課題

(1) 平成２８年度区学習状況調査結果から明らかとなった課題

①　国語に関しては、昨年度と比べ「話す力・話す力」「書く力」は目標値や全国平均を超えることができたが、「読む力」については６学年以外、目標値を下回る結果となった。毎日の授業の中で、内容を理解するために言葉を一つ一つ大切にする活動を取り入れていく。

②　算数に関しては、「数量や図形についての知識・理解」の観点において、５つの学年中３つの学年が目標値や全国平均値を下回る結果となった。図形に関する知識理解を定着させるために授業をまとめる場面を丁寧に行っていく。

③　社会・理科に関しては、「社会的な思考・判断・表現」「科学的な思考・表現」の項目で実施した３つの学年中２つの学年が目標値や全国平均を超えることができなかった。資料を読み取ったり実験の結果から事象と結びつけたりする活動が知識として定着していなかった。資料から読み取れること、実験・観察の結果から得られたことを共有し、深化させる活動を取り入れていく。

(2) 区学習状況調査結果以外（普段の授業の様子等）から明らかとなった課題

①校内研究の取り組みで改善は見られるが、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることに課題がある。積極的に自分の考えを発表することに抵抗をもつ児童も多い。校内研究で取り組んでいる算数科だけでなく教育活動全体で自分の考えを伝える活動を取り入れていく。

②繰り返しの計算練習、漢字練習など、根気よく学習に取り組むことに課題が残る。基礎学力の上に発展課題に取り組んで行くためにも基礎学力を定着させていく必要がある。

２　平成２８年度【前期】授業改善の取組（方策）の実施状況（どの方策がどの程度実施できたか）

学力Ｄ層・Ｅ層の児童・生徒数を昨年度より減少するための取組
○毎日の授業・放課後学習では、児童の習熟に応じた教材を作成し、基礎・基本の徹底を図る。→算数は東京ベーシックドリルを活用し、振り返り、立ち戻り、繰り返しつまずいているところの解消を図る。
区の共通課題①　「読む能力」「書く能力」「言語の知識・理解」を育成するための取組
○ノートやワークシートに分かったことや自分の考えをまとめることで文章を書く力を付ける。→校内研究で取り組んでいる算数科以外の教科にも波及し、自分の考えを書き込む習慣がついてきた。
区の共通課題②　「思考力・判断力」を育成するための取組
○既習事項を活用し、自らの力で課題を解決し、互いに考え方を高める力を育成する。→教職員で共通理解のもと、既習事項を活用し、課題解決型の授業展開している。
区の共通課題③ 学習意欲を高める取組、若しくは教育家庭外の学習時間の増加の取組
○各学年、年間２回以上体験的活動を取り入れた授業を実施し学習意欲を高める。→オリンピックの銅メダリストを招いて体験的授業を取り入れるた。今後、さらなる充実に努めていく。

３　平成２８年度後期における学力向上に関する具体的な取組

(1) 学校全体で組織的に取り組んでいくこと

①基礎学力の向上を目指して本校独自の学習状況調査を年３回（４月・９月・２月）実施し、学力向上への取り組みの成果を検証していく。
②学習状況アンケートを年２回実施する。（家庭学習の時間、授業中の様子、勉強の取り組み等）
③中川家庭学習週間を年２回（７月・２月）実施する。児童に家庭学習カードを配布し、家庭での学習内容、時間、場所を記録する。
④朝学習の時間（８：２０～８：３５）に計算タイム（計算プリント・文章題プリント）、漢字タイム（漢字プリント）、読書タイムを実施する。
・漢字プリント、計算プリントについては、前期は前学年の内容、後期は学年の内容で学習する。そして、取り組んだプリントは見直しをし、復習をする。
・読書の時間には図書ボランティアの方による読み聞かせを月２回実施していく。
⑤学力補充を重点とした放課後学習（中川きっずワーク）を実施する。
・学習指導員の活用を通して学習支援が有効と思われる児童を対象に基礎、基本の確実な定着や自己学習を支援を行う。（東京ベーシックドリルの活用）

(2) 特定の学年や特定の教科において取り組んでいくこと（学年や教科を明記する）

①　全学年・算数
・校内研究の算数科を核に既習事項を活用し課題解決型の授業を展開することで学力の向上・定着を図る。
・学び合い活動を通して、自分の考えを分かりやすく伝える活動、分かったことを伝える活動を積極的に行い一人一人の表現力を伸ばしていく。
②　３・４・５・６年・社会
・授業で使用する資料の充実、資料から読み取れることを自分の言葉で表現する活動を取り入れていく。
③　全学年・国語・算数
・学習支援員を活用し、「中川きっずワーク」【放課後学習】を行うことにより、国語・算数における基礎基本の不十分な部分を補充する。同じ問題を繰り返すことで「できる」という成功体験を多く積み重ね自信をもたせる。やる気をもたせながら放課後学習に取り組ませることによって全体的な学力向上を図る。

(3) (1)と(2)の取組の成果指標及び具体的な目標

成果指標（成果があったかどうかをどのように判断するか）	具体的な目標（できるだけ数値化する）
・算数全般における図形の問題、定規やコンパスなど道具を使い、作図をする問題等、わり算（特に小数の余りのあるわり算、分数のわり算など）、演算決定能力を必要とする文章題を朝学習、放課後補習等で繰り返し行う。東京ベーシックドリルを活用し日々の反復を継続する。	・全校での算数のＤ層、Ｅ層が平均３割を上回っているので、３割以内に収める。
・資料を読み取ること、実験の結果から事象と結びつける活動が知識として定着していなかった。資料から読み取れること、実験・観察の結果から得られたことを共有し、深化させる活動を取り入れていく。	・社会・理科におけるＤ層、Ｅ層の割合が４年５年６年とも３割を超えているので、３割以内にしていく。

４　平成２９年度の区学習状況調査の目標（Ｄ・Ｅ層の割合をどれだけにするか）

（新３年）国語…　２０％　算数…　１５％
（新４年）国語…　１６．７％　社会…　２２．２％　算数…　２７．８％　理科…　１６．７％
（新５年）国語…　２１．８％　社会…　２８．１％　算数…　１５．６％　理科…　２１．８％
（新６年）国語…　９．７％　社会…　１９．４％　算数…　９．７％　理科…　１６．１％